



受験はゴールではなく上り坂の通過点

校長 赤松 弘一



大寒を過ぎ、2月3日は節分です。コロナという鬼を追いやって、安心して暮らせる日が来るように豆をまきたいと思います。節分は文字通り、季節の分け目を表します。4日は立春、暦の上では春になります。まだまだ寒いですが、冬至の頃に比べると、この頃の陽射しはずいぶん強くなっています。

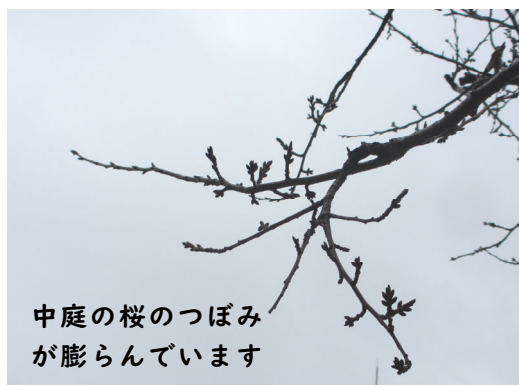
さて、いよいよ受験シーズンは本番を迎えます。3年生の皆さんは、不安や緊張の毎日を過ごしているでしょう。さらに、コロナに感染したらどうしようという不安が重なります。感染予防は確実にマスクをし、手洗いとうがいの徹底と、よく寝て食べて体の抵抗力を高めることが大切です。そして入試に対して不安でたまらない時は、机に向かうことが一番です。今までやってきた過去問題を解いたり、英単語や漢字の復習をしたりすることです。あれこれ考えても仕方ありません。心を無にして目の前の問題に取り組む、それが結果につながると 생각합니다。今頑張った経験は、高校に入学してから生きてきます。

最近大学入試を巡って、大きな事件がありました。成績が上がらず、希望の大学学部に行けそうにないからと自暴自棄になって人を傷つけたり、なんとか点を取りたいと不正行為をしたり。彼らには偏差値の高い大学へ行くことが何より優先される目的だったのでしょくか。合格しないと、もうなりた自分にはなれないのでしょうか。今の日本の社会は、それほどまでに若者の生き方を圧迫しているのでしょうか。

自分自身の中学時代を振り返ると、やはり「希望の高校に入ろう、入れたら全てうまくいく」と考えていたように思います。しかし入ってみても何も保障されたわけではありませんでした。そこでは中学校時代の何倍もの課題が出され、器用でない私には難解な授業について行くのに必死で、受験勉強以上に学習に追われる日々でした。高校生活を通して自分の力の限界、つまり自分というものの背丈が見えてきました。これは他人と比べても仕方ありません。それが私なのですから。

描いた夢や目標が実現できるかどうかは、それに対してどれほどの強い思いがあるか、そしてたゆまず努力できるかによります。また出会いや、その時置かれた状況も影響するでしょう。小さい頃に描いた大きな夢を実現できる人はそれほど多くありません。様々な経験の中で自分の力を知り、「自分の力では及ばない」と納得し、あきらめることもあると思います。その時は新たな夢を描いて、それに向けてまた進んでいくでしょう。希望の高校に行けないからと夢をあきらめる必要はありません。途中の道筋が違っていても、自分なりの道をたどって夢は実現できると思います。

目標をもって生きている以上は上り坂が続きます。頂はずっと先です。転ばないように足元をしっかりと見て、時には周りの景色も楽しみながら自分のペースで歩きましょう。途中で初めに描いた頂とは全く違う頂を目指してもいいのです。それぞれの道でそれぞれの頂を目指して一歩ずつ歩いてください。



中庭の桜のつぼみが膨らんでいます